
存在家族

いち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
存在家族

【Nコード】
N6104C

【作者名】
いち

【あらすじ】
不在家族の対になる小説です。確かに僕はここにいる・・・

（前書き）

不在家族の対になっています。

僕はとある国の、とある街で生まれた。確かに産声を挙げ酸素を肺に掬い上げる。

その感覚はもう、記憶にも無いけど今もこうして呼吸を無意識に行っているし、意識して呼吸を止めると21秒程度で限界を来たしてしまう。

つまり、僕は人間だ。

なのに、僕はいない。

生まれた時から一人だった様な気持ちになる程長い間一人ぼっちだ。食卓には、必ず僕の席が設けられている。お父さんとお母さんの対面。お兄ちゃんも世の中で言う所の上座に座る。妹は僕の隣、僕は左利きだから、手があたってしまい少し邪魔になるが、致し方ない。冬になって、食卓が和室の居間になっても、その形成が崩された事は無い。

しかし、僕の眼前に温かいご飯が盛られた茶碗が差し出される事は無かった。

勿論僕にも部屋はある。うんと小さい頃には妹と同じ部屋で寝ていた。二段ベッドの上に僕は寝ていた。妹は寝付きが悪く、ぐずる程幼くはなかったけれど、不安に陥る程の子供らしさは持っていた。

そんな日は、よく子守唄を歌ってあげる。

すると、妹はすやすやと寝息を起てて穏やかな眠りにつく。

夜中にお母さんが妹に、布団をかけ治してやるが、僕にはそれが無い。長方形に置かれた、タオルケットを被る事もなくその仮睡眠におちる。僕への子守唄は誰が歌ってくれるのだろうか・・・少し哀しくなってしまう。

そんな寝床も妹の成長期と共に失われてしまった。

今の僕はお風呂場で寝ている。

ふかふかのタオルケットは沢山あるし、調度僕一人が横になるスペースを確保出来るからだ。

一度和室で寝たけど、あそこは頂けない。イグサの匂いと、畳みの間食が僕には会わないのか睡眠を貪る事は出来なかったのだ。残念ながら。

勿論僕にも勉強部屋はある。

僕は学生では無いけれど、お兄ちゃんと同じ部屋に机を有している。そこには僕自慢の色鉛筆と赤と青のペンが置かれている。それは数少ない僕の持ち物でもある。お兄ちゃんの机には、アルバイトをして貯めたパソコンや穴が均等に空けられた、紙が所狭しと置かれていて、いつの日か僕の机に境界線を越えて、押し寄せてくるのでは無いかと不安になる。だけど、お兄ちゃんは優しいからそんな事はしない。

自慢の家族なんだ。

お母さんは、僕の為にこつそりご飯を用意してくれる。冷蔵庫にはポテトサラダ、レンジにはチキンのソテーが、お鍋にはコンソメスープ、炊飯ジャーには寄り合わせて調度一人前のごはんが入ってる。僕はそれを食べる。料理が得意なお母さん。

お父さんは、僕の為にこつそり

お布団を用意してくれる。枕にはお中元でもらったイタリア製のタオルケット贅沢に畳んだ俣使用出来るのは、僕の自慢だ。

朝には必ず干してくれるから、いつだって、ふかふか加減を果たしてくれる。律儀ぶかいタオルなのだ。

だけれど、僕は妹と言葉を交わした事が無い。

慌ただしく、僕の寝室兼洗面所に妹が来る。寝癖が酷いのかドライ

ヤーとブラシを使い必死にブローをしている。おはようと言つ言葉
はいつもドライヤーの音に邪魔されてしまう。
いつ迄も子供だと思つてたけど一人前のレディなんだな。
だから、僕は静かに寢室を後にした。

（後書き）

読んで頂き、ありがとうございます・ ・ ・一応終わりです。尻切れトンボかもしれませんが、他の家族目線を書くかもしれません・ ・ ・。ご感想いただけたら幸いです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6104c/>

存在家族

2010年12月19日01時28分発行